

## 連合ボランティアセンター内でワークショップを開催

—連合岩手・東和ボランティアセンター「雨の日プログラム」—



5月30日、連合岩手・東和ボランティアセンターで、参加ボランティアとセンタースタッフによるワークショップを開催し、経験交流と意見交換を行いました。これは、雨の予報によって当日の活動中止が決まったため、「雨の日プログラム」として企画、開催したもので、15名が参加しました。

ワークショップでは、ボランティアセンタースタッフ（連合岩手：道又・大川両副事務局長／電機岩手：佐藤さん／JP労組岩手：古山さん）から、発生直後とそのあとの対応について、当事者だからこそできる話をして頂きました。

○テレビ・ラジオでは逐次伝えられていた情報も、発生直後から数日続く停電のために、実は被災地にいる自分たちは満足にアクセスできておらず、何が起きているのかわからなかった。

○携帯電話が全く役に立たなかった。また、緊急連絡網も通信不通などであまり機能しなかった。一方で、会社による社員への物資の配給が社員の消息把握に大きく役に立った。

○なによりも、「この状態はいつまで続くのだろう」という不安が全てだった、など…

震災の影響を直接受けていない地域から参加したボランティアは、メディアを通じてでは得られない情報だ、と熱心に耳を傾け、質問していました。また、ボランティア活動について参加者からは、活動地点のボランティアセンターが指示する作業内容を事前に把握するとボランティアの効果をさらに高められる、との意見も出されました。



■報告に熱心に耳を傾けるボランティアメンバー

## 活動レポート

### 岩手

#### ●東和拠点

【5/27】釜石市と大槌町で活動。釜石では浸水家屋の壁・床はがし、床下のヘドロ除去を実施。大槌では家屋周辺での家財撤去、倉庫からの荷物搬出を実施。

**現地から** 現地は砂埃や暑さのため、45分ごとに休憩を取りましたが、疲労感がありました。

【5/28】雨天の為作業中止

【5/29】釜石では27日と同じ家屋での作業。大槌では民家の畑からの泥出し、石灰散布などを実施。

**現地から** 持ち主不明の記念写真が多く見付き、釜石の社会福祉協議会に届けました。写真が無事持ち主に届くことを願っています。（次ページへ続く）

#### 【連合救援ボランティア 活動人数（6/1現在）】

●延べ人数 15,082名（人数×日数 実派遣者数 2,300名）

（内訳）岩手：延べ5,142名（実人数853名）  
宮城：延べ4,605名（" 675名）  
福島：延べ5,335名（" 772名）

(活動レポート続き)

## 宮城

### ●千厩拠点

【5/31】気仙沼市内で家屋（4か所）の片づけ作業を実施。

**現地から** 防塵マスクと防塵ゴーグルをしながらの作業だとゴーグルが曇って作業に支障をきたすことがあります。場所によっては使い捨て防塵マスクが午前中で真っ黒になってしまうこともありました。

## 福島

### ●福島拠点

【5/31】南相馬市、新地町で活動。南相馬では民家の庭での片づけ作業、新地では側溝の泥出し作業（右写真）、相馬では民家での家財搬出、台所清掃（床下からのヘドロの搬出）を実施。



### ●会津拠点

【5/31】郡山市、会津若松市、相馬市で活動。郡山では野菜切り、支援米の整理（袋詰め）、避難所でのスूप作り。会津若松では物資支援センターでの物資配布。

**現地から** この日、会津若松の物資支援センターには、過去最多の1,001世帯が来場。被災された方からの「ありがとう。助かりました」の言葉に感謝しました。

### ●いわき拠点

【5/30】いわき市内で、ボランティアセンターで備品貸し出し・返却、洗浄作業。避難所だった体育館の清掃作業を実施。

**現地から** 前日まで避難所だった体育館で、床に敷いていたマット、卒業式直前に被災したためそのままになっていた紅白幕を撤収しました。翌日から利用できるまでに清掃したことで、校長先生から大変感謝されました。

【5/31】いわき市豊間合磯地区で側溝の清掃を実施。

## ～ボランティア参加者の声～

連合救援ボランティアに参加された方々からの報告を不定期に掲載しています。今回は日教組から参加し、岩手・住田拠点で活動されている大杉周三さんからお寄せいただいた報告をご紹介します。

★★各構成組織・地方連合会から参加された方のご感想、お待ちしております★★

第8陣（2011.5.26～6.2）は、住田ボランティアセンター（五葉地区公民館）を拠点に大船渡市を中心に活動しています。大船渡社会福祉協議会の依頼を受け、連合だけでなく、他の団体や個人ボランティアのみなさんと一緒に、個人宅の片付けや側溝・市民プールのカレキ撤去などを行っています。

その活動の中で、震災のニュースを聞いてボランティアにかけたオーストラリアの方々、大船渡で生まれ東京で働いている方など、「自分のできることを一生懸命に行っている姿」に、私たち参加者の気持ちも高まっています。被災地の早い復旧と復興を目標に、みんなが「つながろうNIPPON」となっていることを実感したボランティアの活動となっています。

先日は、50mプールのカレキ撤去を行いました。とても大変な作業でした。しかし、数多くのボランティアが協力し、プールいっぱいにあったカレキや大量のヘドロがどんどん無くなっていく様子に感動しました。「子どもたちが楽しくプールで遊べる日常をとり戻す」ということに、ほんの少し参加できたことにうれしく思った活動でした。

《日本教職員組合 大杉周三さん》



■14時48分で止まった時計の下へプールのカレキと大量のヘドロを運ぶ